

2020年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
Chief Accounting and Financial Officer
武藤 直樹

2020年2月6日

CAFOの武藤でございます。

2020年3月期 第3四半期決算の概要について説明いたします。

売上と調整後営利がQ3累計として過去最高

(億円)

	18年度Q3累計	19年度Q3累計	増減率	為替除く増減率
売上収益	4,436	4,701	+6%	+9%
売上総利益	2,422 (54.6%)	2,586 (55.0%)	+7%	+11%
一般管理費	1,320 (29.8%)	1,368 (29.1%)	+4%	+7%
研究開発費	360 (8.1%)	370 (7.9%)	+3%	+5%
その他収益費用	44	15	-	-
営業利益	785 (17.7%)	863 (18.3%)	+10%	+18%
調整後営業利益	912 (20.6%)	984 (20.9%)	+8%	+17%
税引前利益	750 (16.9%)	855 (18.2%)	+14%	
当期利益	565 (12.7%)	669 (14.2%)	+18%	

期中平均レート	USD	111円	109円
	EUR	129円	121円

- 売上収益 : 全カンパニーでプラス伸長を継続。TISとニューロが二桁伸長を継続し全体を牽引
- 調整後営業利益 : 為替の影響を除くベースで二桁伸長を継続
- 税引前利益 : 前年同期の為替差損32億円に対し、今年度は差損8億円と縮小



2/22

初めに全体総括です。

売上収益と調整後営業利益が、Q3累計として過去最高となりました。

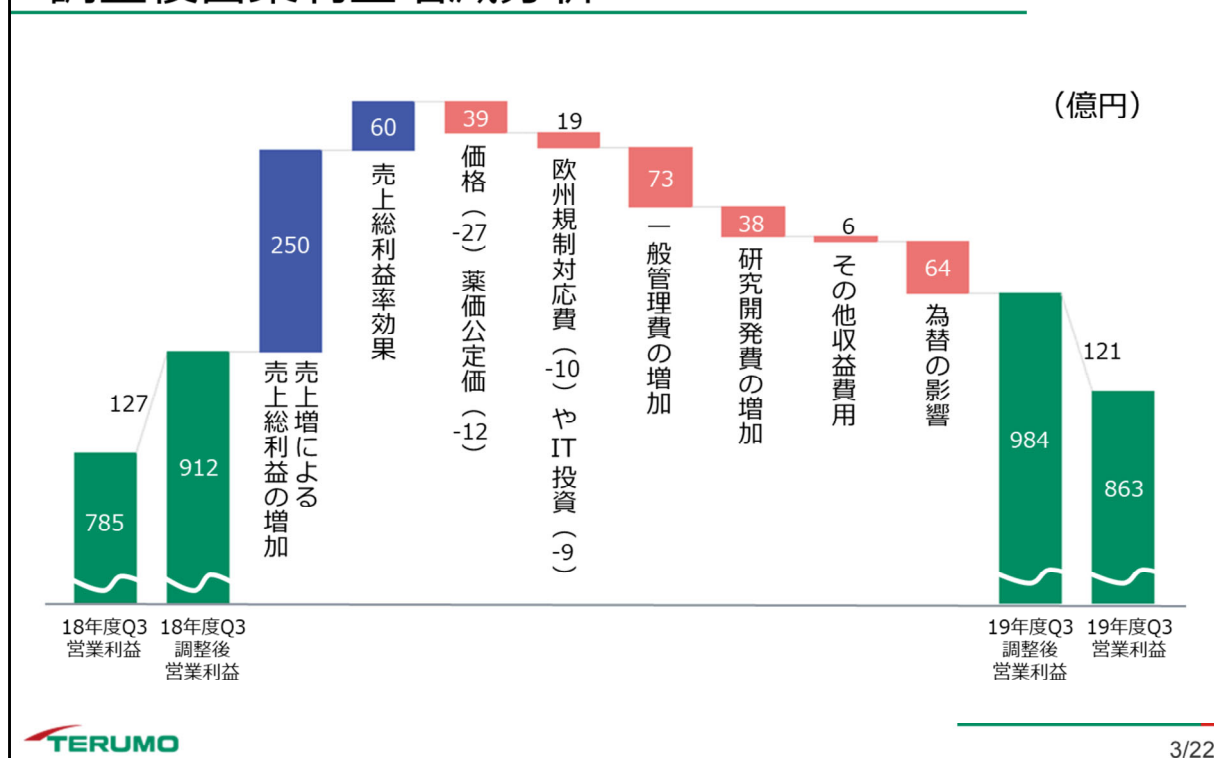
売上収益は、上期に引き続き全カンパニーがプラス伸長、中でも心臓血管のTISおよびニューロ事業が二桁伸長し、グループ全体を牽引した結果、6%伸長となりました。

調整後営業利益は、グループ全体として売上が順調に推移したことで為替影響を除くベースで二桁伸長、営業利益は為替影響込みでも二桁伸長を継続しています。昨年度出荷遅延の回復時期との比較ですので、増減率は上期ほど高くありませんが、順調と考えています。

税引前利益は、前年同期と比較して為替差損が縮小したため、14%の増益となりました。

為替の影響を除くと売上が9%伸長、営業利益は18%伸長と好調を維持しています。

調整後営業利益増減分析



調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は、出荷遅延の影響も薄まっており、通期ガイダンスの330億円と比較し、250億円とほぼ計画通りの進捗となりました。

「売上総利益率効果」の60億円は、通期ガイダンスの48億円を上回りました。上期の金額から変動がありませんが、これは昨年度の出荷遅延明けに、通常以上となった粗利益率との比較ですので、想定通りの進捗と言えます。今期は心臓血管の事業ミックス改善に加え、生産コストダウンが順調に進み、ガイダンスからの上振れに貢献しています。

「価格下落」では、公定価改定の影響は想定通りでした。それ以外の価格下落は想定より少なく、利益へプラスの効果がありました。

「欧州規制対応費」は、通期ガイダンスの32億円に対し、実績は10億円と進捗が遅く見えますが、作業は順調に進行しています。Q4にシステム監査が集中していることから費用支出は増え、またそれ以降も年度支出のレベル感は上がるものとみています。

「一般管理費の増加」は、通期ガイダンスの125億円と比べ、73億円の進捗となりました。上期は、TISの出荷遅延のリカバリー費用やニューロのWEB拡販の体制整備の費用は出ませんでした。下期においては、出荷遅延のリカバリー費用は元々予定しておりましたが、WEBの費用や他の一般管理費の支出は計画通り出る見込みです。

「研究開発費」の38億円は、通期ガイダンスの57億円に対し計画通りの進捗です。

「その他の収益費用」の6億円は、主に血液システムカンパニーにおいて、昨年度あった助成金の受け取りが、今年度なくなった為に出た差額です。

「為替の影響」は、上期23億円に対して、64億円と大きく増加しましたので、次のスライドで説明します。

営業利益増減分析における為替の影響

対前年為替影響 ▲64億円：上期▲23億円から、Q3に▲41億円拡大

<▲41億円の内訳>

■ フロー ▲23億円：対前年円高 ユーロや新興国通貨安の影響

レート比較	(円)		
	18年度Q3期中平均	19年度Q3期中平均	差異
EUR	129	120	▲9
中国元	16.6	15.6	▲1

■ スtock ▲18億円：棚卸資産未実現利益為替影響

- 今年度12月末日レートが急激に円安へ移行したことによりネガティブ影響
- 前年度はポジティブだったため今年度との差異拡大

レート比較 (円)				レート比較 (円)				
	18年度Q3期中平均	18年度12月末	差異		19年度Q3期中平均	19年度12月末	差異	
USD	113	111	+2	➡	USD	109	110	▲1
EUR	129	127	+2		EUR	120	123	▲3

TERUMO

4/22

上期23億円の影響がQ3累計で64億円となり、41億円拡大しました。この内訳を説明します。

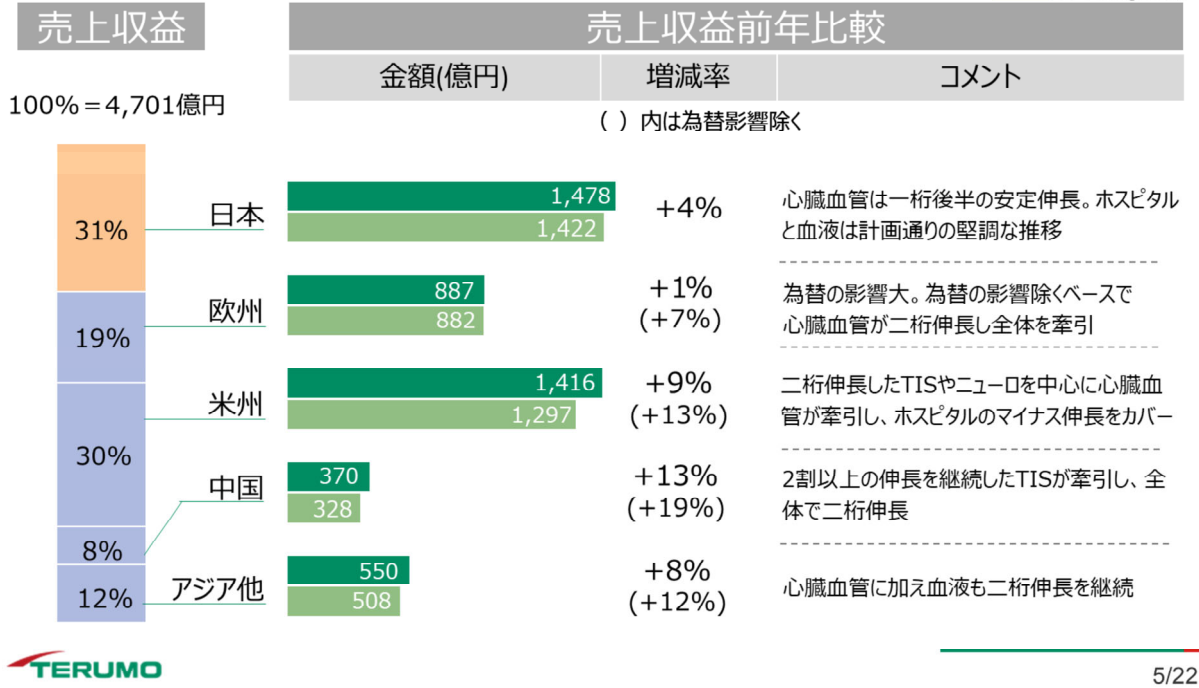
まずフローでは、上期に引き続きユーロ、人民元、新興国通貨に対する円高により、このQ3で23億円のマイナス影響が発生しています。

続いてストックですが、12月末日為替レートがスポット的に円安に動いたことで、棚卸資産の評価額が増加した結果、未実現利益が増加し、収益へのマイナス影響がありました。また前年度には、同影響がポジティブであったため差異が拡大し、このQ3で18億円のマイナス影響となりました。

このフローとストックの合計41億円が、為替影響の増加要因となります。

地域別売上収益

■ 19年度Q3累計
■ 18年度Q3累計

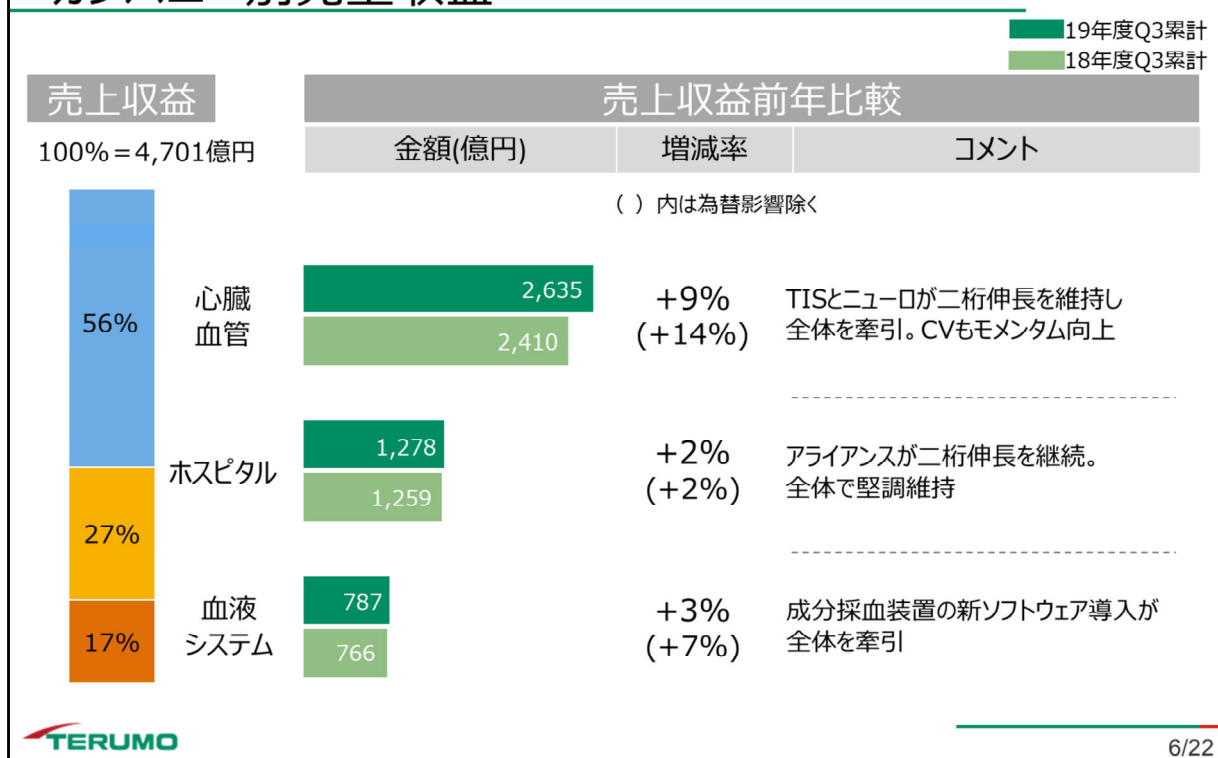


地域別売上収益です。

日本では、昨年度の心臓血管における出荷遅延の反動も一巡し、安定伸長に戻っています。ホスピタルと血液は計画通り堅調に推移しました。

海外は、昨年度Q3が出荷遅延直後の反動により特異的に高かったため、今年度Q3累計の伸長率は上期と比べてマイルドになりましたが、依然、為替を除くベースで一桁後半から二桁の伸長を示し、好調を維持しています。

カンパニー別売上収益



カンパニー別売上収益です。

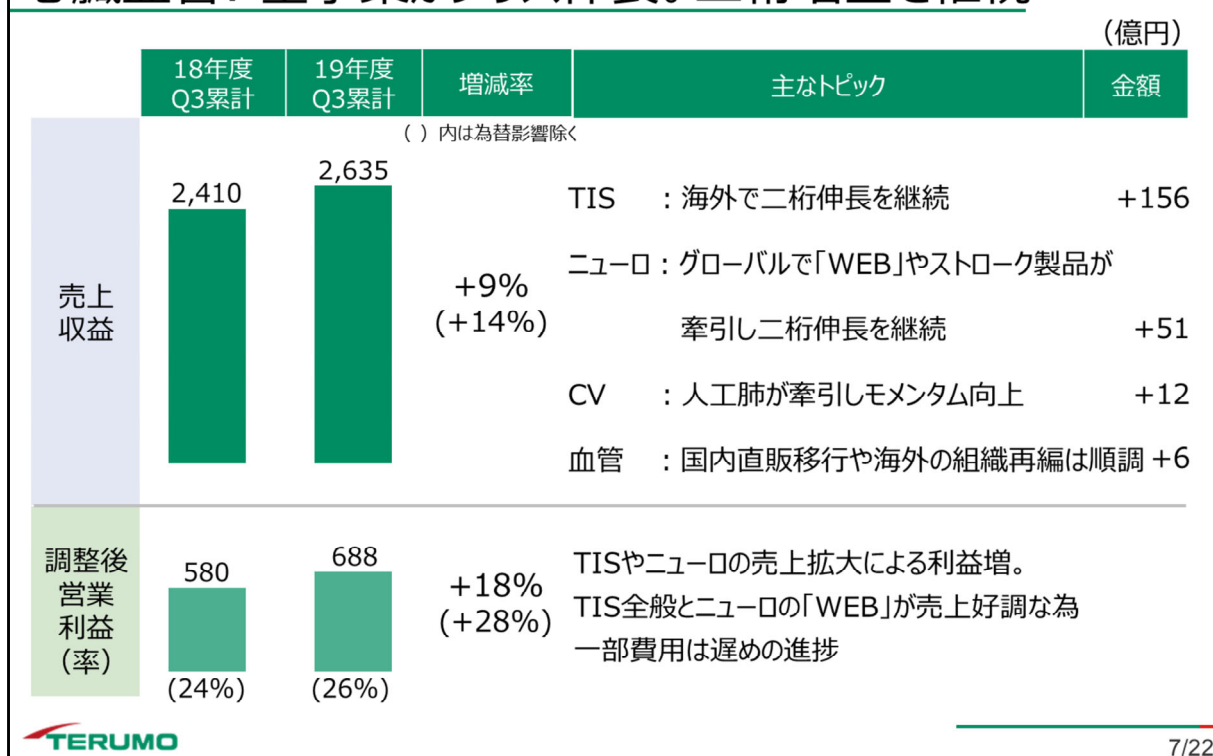
心臓血管は、TISとニューロが二桁伸長を維持し、カンパニー全体を牽引しました。また、CV事業も人工肺の売上好調を背景に、下期に入りモメンタムが向上しています。

ホスピタルは、アライアンスが二桁伸長を継続、カンパニー全体として堅調を維持し、計画通りに推移しています。

血液システムは、血液センター向けの成分採血装置の好調が全体を牽引しました。

次のスライドより、カンパニー別に詳しく説明いたします。

心臓血管：全事業がプラス伸長。二桁増益を継続



心臓血管カンパニーです。

売上収益は、昨年度Q3が、出荷遅延直後の反動により高かったにも関わらず、為替を除くベースで二桁伸長を継続しています。

TISは、海外が二桁伸長を継続し、全体を牽引しました。

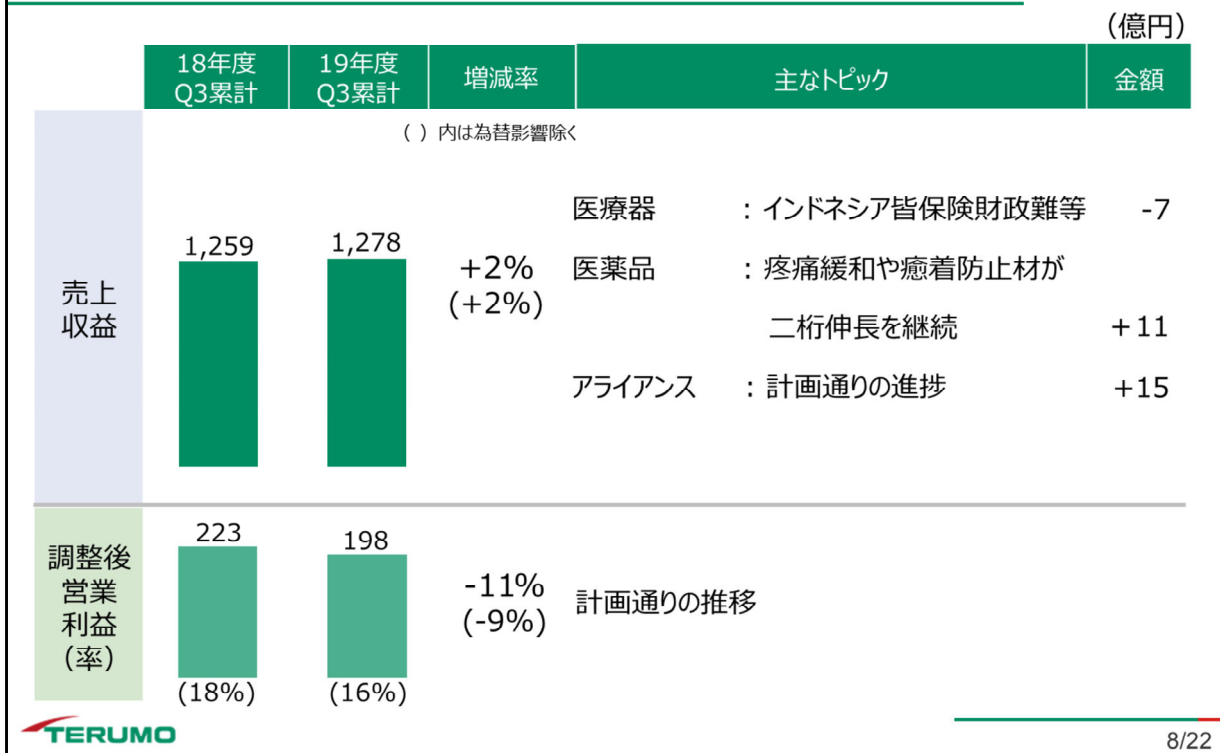
ニューロは、新製品WEBや血栓吸引カテーテルを中心としたストローク関連製品がグローバルで牽引し、二桁伸長を継続しています。

CVは、人工肺の売上が好調、全体のモメンタムが向上しています。

血管は、直販移行や買収後の組織再編が着々と進む中、堅調に推移しています

利益については、収益性の高いTISやニューロの売上拡大が寄与しました。加えて、売上好調を背景に、TISにおける出荷遅延のリカバリー費用や、ニューロのWEBにおける米国立上げ費用などが出なかったことにより、前年同期比18%増と二桁増益を継続しました。

ホスピタル: 計画通りの売上・利益進捗



8/22

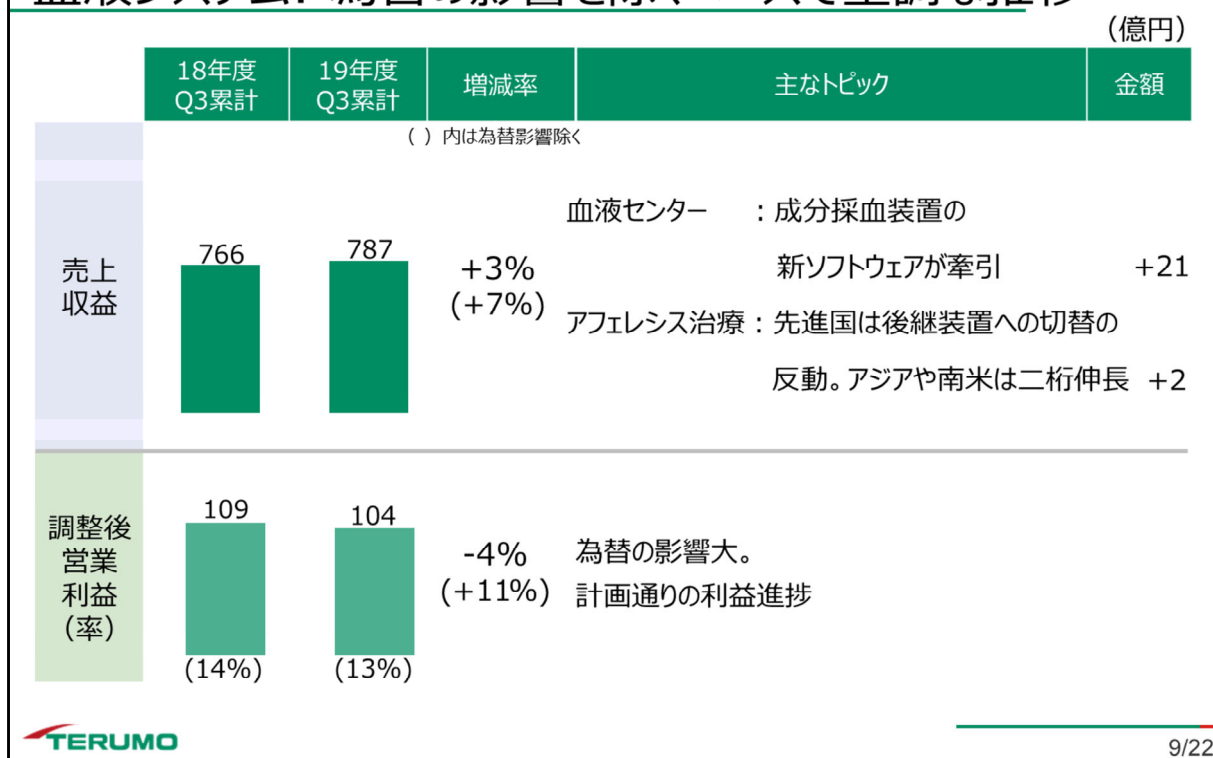
ホスピタルカンパニーは、売上・利益ともに計画通りの進捗となりました。

売上収益において、医療器は、為替の影響に加え、海外における一時的な需要減がみられましたが、足元では回復の兆しも見えており、今後の回復を期待しています。

医薬品では、疼痛緩和製品や癒着防止材が牽引、アライアンスでは四半期ごとに受注の上下はあるものの、計画通りの二桁伸長を継続しています。

利益と合わせ、カンパニー全体として計画通りの進捗となりました。

血液システム：為替の影響を除くベースで堅調な推移



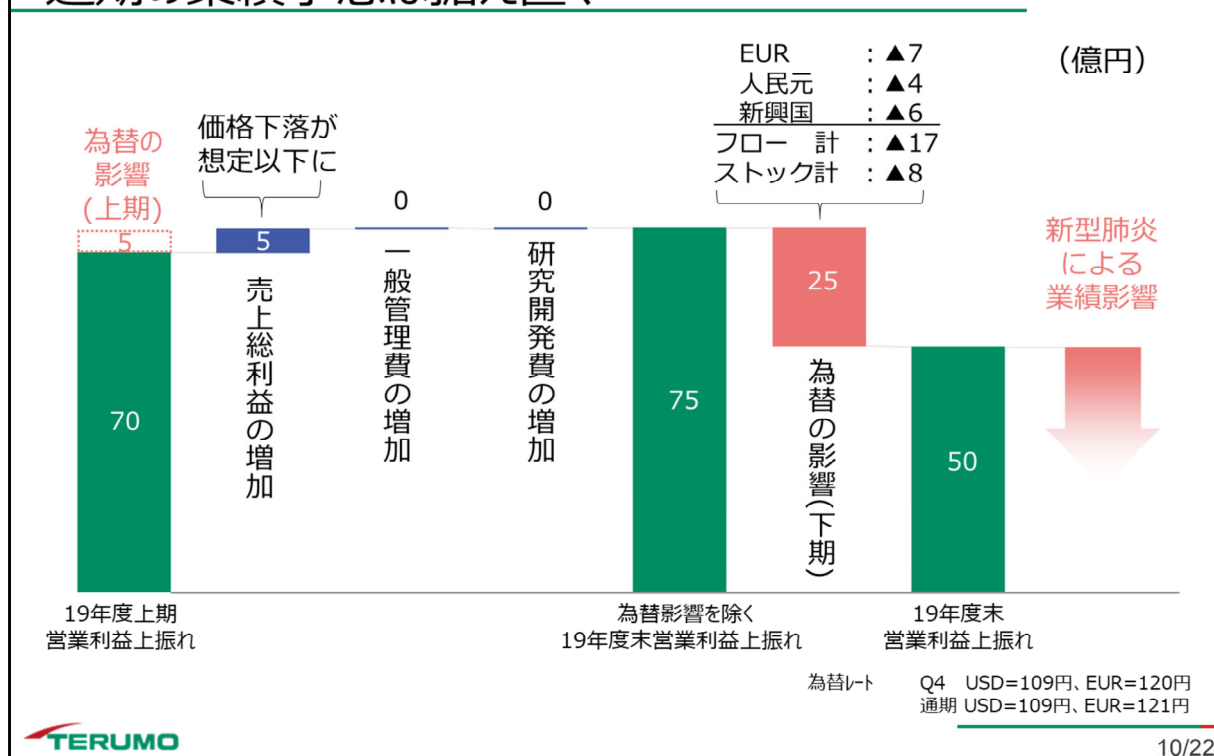
血液システムカンパニーです。

売上収益は、血液センター向け事業において、成分採血装置Trimaの新しいソフトウェアを導入し、成分採取の効率向上を訴求したことが、装置およびディスプレイ製品の売上増につながっています。

アフレス治療は、先進国では後継装置切り替えの反動がありましたが、新興国においては二桁伸長しました。

利益は、為替の影響を大きく受け減益ではありますが、為替影響を除くベースで堅調に推移しており、概ね計画通りとなっています。

通期の業績予想は据え置く



ここで、下期の見通しについて説明します。

上期の売上収益は計画通りに進捗しましたが、想定していた出荷遅延のリカバリー費用や、WEBの立ち上げ費用などが出なかった事により、70億円の上振れとなりました。この上期上振れ分から、通年で50億円へと推移するのですが、下期における計画との差異について説明します。

まず、下期の売上は、薬価公定価改定がある厳しい状況にも関わらず、堅調な進捗になると想定しています。加えて、価格の自然下落が想定よりも小さく、粗利益を押し上げるとみています。一般管理費においては、下期は、計画通りに費用の投下をするものと見ています。研究開発費は上期同様の傾向で、計画通りに使う予定です。為替においては、上期に5億円程度のネガティブな影響がありましたが、下期に入り、ユーロ、人民元、新興国通貨が、一段と円高に振れると想定しており、下期計画以上にネガティブに効きます。これらのプラス・マイナスにより、上期の70億円の上振れ分が、通期では50億円になるものと考えています。

なお、拡大が続いている新型コロナウイルスに関連して、弊社の状況について概略を説明いたします。販売面においては、香港や台湾の拠点では1月末より操業を開始しています。中国本土の拠点については、2月10日に開始予定です。生産面では、杭州工場は既に2月3日より操業を開始していますが、今後も計画通りに進むか注視している状況です。物流会社や税関などを含めたサプライチェーンにおいては、遅延が起こる可能性があると考えています。従って、一定のネガティブな影響は出るものの、期末の上振れ分50億円を打ち消すほどの規模にはならないと想定しています。いずれにしても、現状において影響額を定量化することは難しく、業績予想は据え置くこととしました。

主なトピックス

全社

- 24年連続でグッドデザイン賞を受賞(10月)
- 台風第19号被災地支援として日本赤十字社を通じ義援金を寄付(10月)
- 「テルモグループ人権方針」を制定(12月)



閉鎖式
薬剤移注システム
「ケモセーフロック」



パルス方式キセノン
紫外線照射ロボット
「LIGHTSTRIKE」



経口栄養補助食品
「テルミール
アップリードmini」

事業

- スプレー式癒着防止材「アドスプレー」の小容量品を発売(10月)
- 細胞製剤の充填・仕上げシステム「FINIA」を発売(10月)
- カスタムメイド・ステントグラフトの設計ソフト技術を持つ米アオルティカ社買収(11月)
- 旭化成ファーマ社から「PLAJEX」使用の骨粗鬆症治療剤が発売(12月)
- 脳動脈瘤治療用ステント「FRED」、米国で販売承認取得(12月)
- 袋状脳動脈瘤塞栓デバイス「Woven EndoBridgeデバイス」が日本で製造販売承認取得(12月)



充填・仕上げシステム「FINIA」



「テリボン 皮下注28.2μgオートインジェクター」



袋状脳動脈瘤塞栓デバイス
「Woven EndoBridgeデバイス」



11/22

主なトピックスです。

会社として24年連続でグッドデザイン賞を受賞しました。

事業においては、各カンパニーで現在牽引している、あるいは今後の牽引役として期待される製品群に関連する新製品のローンチ、または技術買収のトピックスが並んでおり、事業拡大のスピードを上げていきたいと考えています。

19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日	FY20	医療器	次期シリンジポンプ	日	Q4
心臓	PTCAバルーン	欧亜	済み	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	済み
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米	済み		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	済み
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米	済み		血糖測定システム	日	Q4
	ミニ・バルーン	欧米	済み		パッチ式インスリンポンプ	日	済み
	血栓吸引カテーテル	日	済み		次期血圧計	日	済み
	ステントリバー	日	済み		次期体温計	日	Q4
CV	次世代人工肺	日	FY20	血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置（再出荷）	日	FY20				
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日	Q4				



12/22

来年度にずれ込む製品が幾つかありますが、今のところ概ね想定通りに製品ローンチが進んでいます。

説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

19年度Q3累計 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	382 (+8%)	2,253 (+15%)	641 (+10%)	1,031 (+15%)	309 (+22%)	272 (+15%)	2,635 (+14%)
うちカテーテル※	285 (+7%)	1,854 (+16%)	522 (+11%)	818 (+18%)	289 (+23%)	225 (+14%)	2,139 (+15%)
ホスピタル	1,005 (+3%)	273 (+0%)	66 (-0%)	61 (+2%)	19 (+6%)	128 (-1%)	1,278 (+2%)
血液システム	90 (+1%)	697 (+8%)	181 (+2%)	324 (+7%)	42 (+7%)	150 (+20%)	787 (+7%)
合計	1,478 (+4%)	3,223 (+12%)	887 (+7%)	1,416 (+13%)	370 (+19%)	550 (+12%)	4,701 (+9%)

※ニューロバスキュラー事業含む

() 内は為替影響除く前年比伸長率



販管費

(億円)

	18年度 Q3累計	19年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	655	666	+11	+2%	+5%
販促費	133	146	+13	+10%	+13%
物流費	101	103	+3	+3%	+5%
償却費	104	139*	+35	+34%	+37%
その他	327	314*	-13	-4%	-2%
一般管理費計	1,320 (29.8%)	1,368 (29.1%)	+48	+4%	+7%
研究開発費	360 (8.1%)	370 (7.9%)	+10	+3%	+5%
販管費合計	1,680 (37.9%)	1,738 (37.0%)	+58	+3%	+6%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え



四半期の動き

(億円)

	18年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上収益	1,586	1,559	1,525	1,548	1,629
売上総利益	876 (55.2%)	843 (54.1%)	852 (55.8%)	863 (55.8%)	872 (53.5%)
一般管理費	450 (28.4%)	467 (29.9%)	445 (29.2%)	451 (29.1%)	472 (29.0%)
研究開発費	123 (7.7%)	116 (7.5%)	118 (7.8%)	125 (8.1%)	127 (7.8%)
その他収益費用	6	21	4	13	-2
営業利益	309 (19.5%)	282 (18.1%)	292 (19.1%)	300 (19.4%)	271 (16.6%)
調整後営業利益	359 (22.6%)	309 (19.9%)	339 (22.3%)	331 (21.4%)	314 (19.3%)

四半期	USD	113円	110円	110円	107円	109円
平均レート	EUR	129円	125円	123円	119円	120円

 TERUMO

16/22

調整後営業利益：調整額

(億円)

	18年度 Q3累計	19年度 Q3累計
営業利益	785	863
調整① 買収無形資産の償却費	+110	+119
調整② 一時的な損益	+17	+3*
調整後営業利益	912	984

調整項目

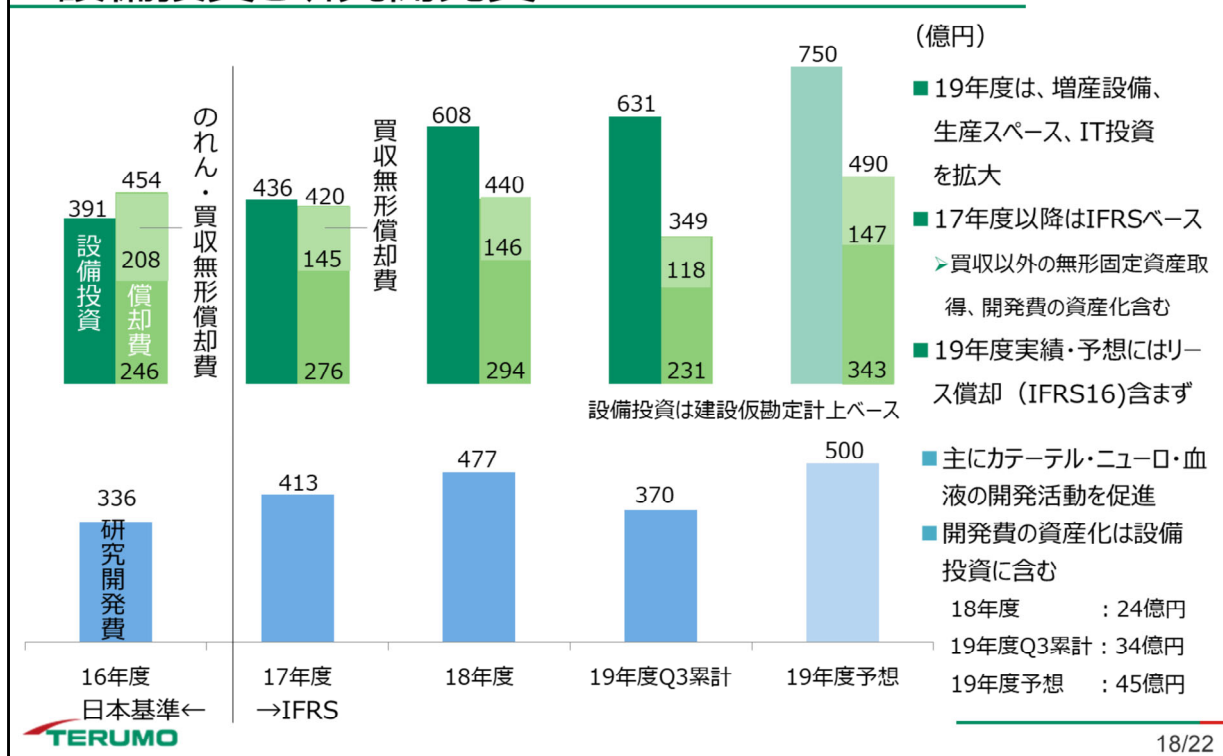
- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な
損益

* 19年度Q3累計 調整②「一時的な損益」の項目

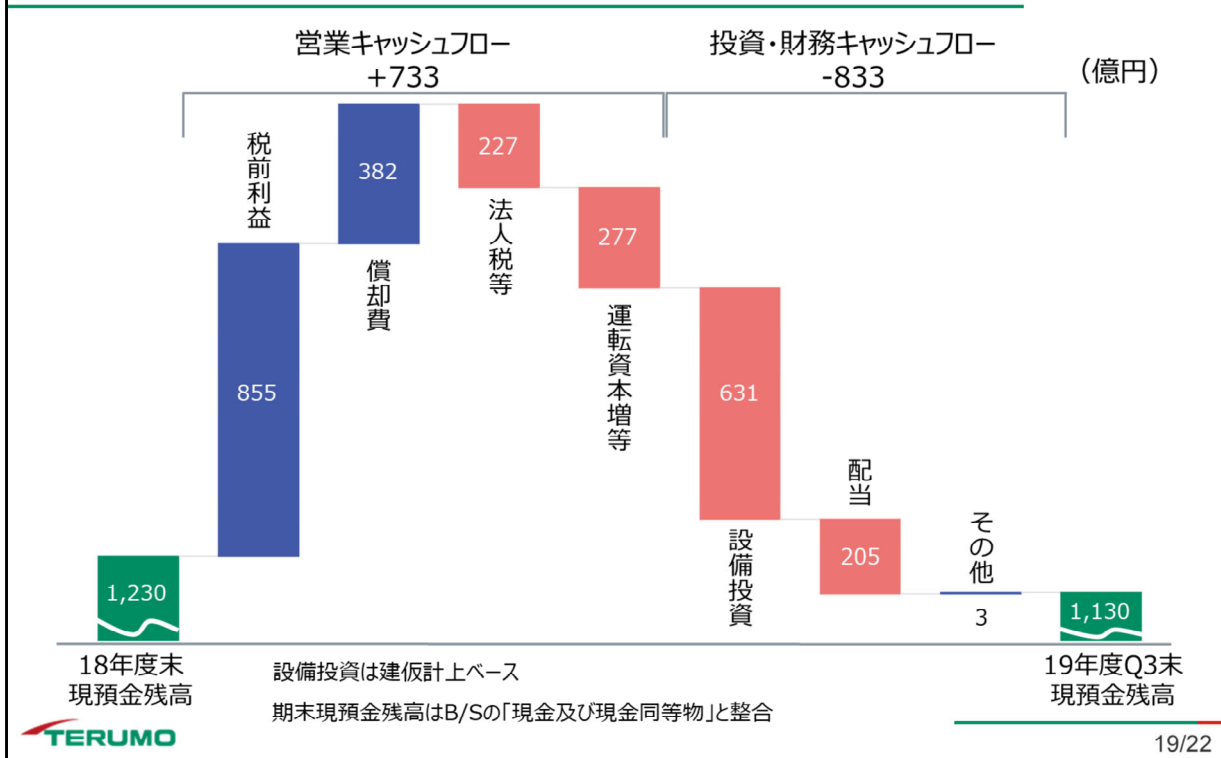
項目	調整額
事業再編コスト	+11
プエルトリコ工場災害保険金受取	-12
その他	+4



設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況 (2020年1月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	425億円 (85.0%)	22百万株 (2.9%)
合計	925億円 (92.5%)	48百万株 (6.3%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

・自己株式の状況：7百万株(2020年1月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比1.0%)



おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。